

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2136 号

Factors Affecting Respiratory Unit Nurses' Self-rated Ability to Care for Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease

(呼吸器病棟に配属された看護師の慢性閉塞性肺疾患患者への看護介入能力の自己評価に影響を与える要因)

田中 朋子 (たなか ともこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、呼吸器病棟に配属された看護師について、看護実践環境等、慢性閉塞性肺疾患患者への看護介入能力の自己評価に関連する要因について検討した。その特色は、COPD患者への看護介入について、本人の能力（自己評価）だけではなく、看護実践環境の影響を含めて検討したことである。看護実践環境は、国際的に使用されている尺度である The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index (PES-NWI) の日本語版を使用しており信頼性・妥当性ともに担保されたものとなっている。

看護介入能力の自己評価は、「病気を理解している」、「患者を理解している」、「呼吸器リハビリテーションができる」、「患者や家族を援助できる」、「患者や家族の権利を守ることができる」、「他の医療従事者と協力できる」、および「役割モデルとなることができる」の7項目とした。呼吸器系病棟での経験年数、専門資格の有無などの属性と PES-NWI のサブスケール (5 種類) スコアを独立変数、看護介入能力の自己評価を二値化して従属変数として、ロジスティック回帰分析 (変数増加法) を実施した。その結果、「看護師と医師との良好な関係」という PES-NWI サブスケールスコアと専門資格の有無が、看護介入能力の自己評価との間に有意な正の関連を認めた。慢性疾患看護専門看護師などの専門資格をもつことや、医師とのより良い関係が、慢性呼吸器疾患における看護介入能力の自己評価を高めることが示唆された。

包括的呼吸リハビリテーションは多職種が関与する体制が求められ、患者の教育指導においては看護師の役割が大きく期待されていることから、本研究の結果は医療チームのありかたに示唆を与えるものとなっている。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。